

# 持続可能な開発目標（SDGs）について

岩手県立大学 総合政策学部 教授 渋谷 晃太郎

## 1. SDGs とは

2015年9月、国連持続可能な開発サミットにて、Sustainable Development Goals (SDGs：持続可能な開発目標) が全会一致で採択された。SDGsは、国連加盟193カ国による2016年から2030年の15年間の行動計画で、17の目標とその達成のための具体的な169のターゲットと232の指標から構成されている。

このSDGsは「誰も取り残さない」ということを基本理念としている。

## 2. SDGs の特徴

SDGsは先進国も途上国も取り組むべき全世界的共通目標を定めており、見える化と指標による客観的な評価が行われる。17の目標はOne Packageで、土台となるのは環境、経済活動は幸せな社会を築くための手段、全体を貫いているのはグローバルパートナーシップで、国連・国・自治体といった多様な主体の参画と市民・企業・NPO等水平の連携が期待される。土台となる環境がよくなると世界はよくなるということである。

また、17の目標は相互に密接に関連しているため、縦割り制度では十分な効果を発揮することはできず、統合的なアプローチ、みんなでアクションしていくことが必要である。フードロス为例にとると、食べ物のごみになるのを削減することは、直接的には飢餓の撲滅に効果があり、それを達成するためには教育が必要であり、同時に天然資源の管理など別の目標を同時達成したり、効果、影響を受けたりと相互に関係しているため統合的に進めなければいけない。

また、どれぐらいやるかという目標だけが決まっていて、方法はそれぞれの主体に任されており、また達成しなくても罰則はない。だが、今世界中がSDGsに取り組んでいるのは、やはり危機感に

2 SDGs の具体的内容

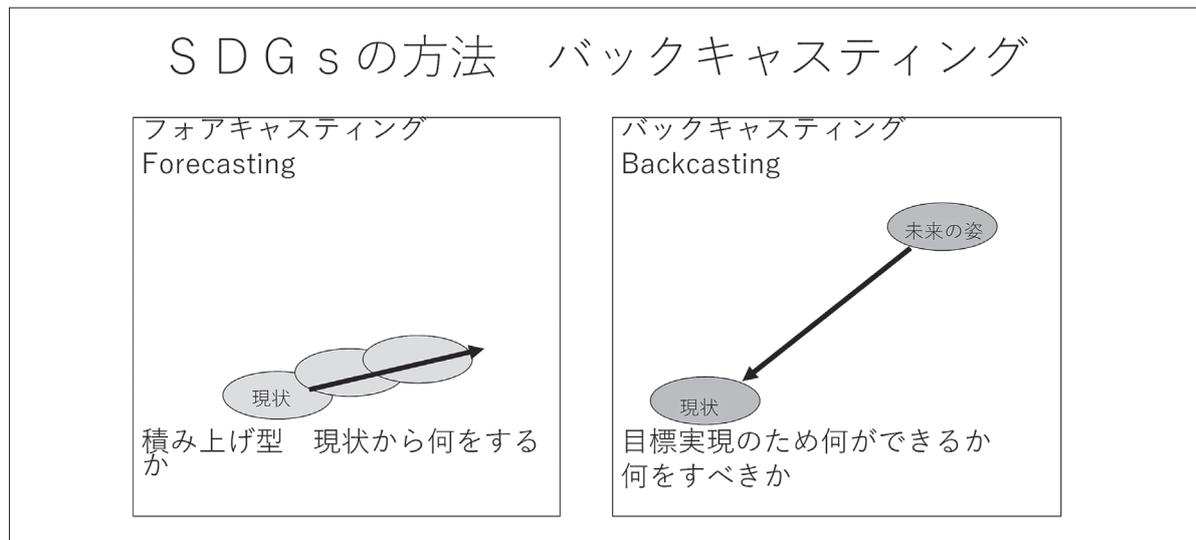
1) 17の目標(Goals)

	<b>1. 貧困をなくそう</b> あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ		<b>4. 質の高い教育をみんなに</b> すべての人に包摂的(※)かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。
	<b>2. 飢餓をゼロに</b> 飢饉に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する		<b>5. ジェンダー平等を実現しよう</b> ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る
	<b>3. すべての人に健康と福祉を</b> あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する		<b>6. 安全な水とトイレを世界中に</b> すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する
	<b>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</b> すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する		<b>10. 人や国の不平等をなくそう</b> 国内および国家間の格差を正す
	<b>8. 働きがいも経済成長も</b> すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的完全雇用およびディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)を推進する		<b>11. 住み続けられるまちづくりを</b> 都市と人間の居住地を包摂的、安全、強韧かつ持続可能にする
	<b>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</b> 強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る		<b>12. つくる責任 つかう責任</b> 持続可能な消費と生産のパターンを確保する
	<b>13. 気候変動に具体的な対策を</b> 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る		<b>16. 平和と公正をすべての人に</b> 持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する
	<b>14. 海の豊かさを守ろう</b> 海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する		<b>17. パートナーシップで目標を達成しよう</b> 持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する
	<b>15. 陸の豊かさを守ろう</b> 陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の防止および逆転、ならびに生物多様性損失の防止を図る		

裏打ちされているからではないだろうか。また、当然やるべきことが書かれているに過ぎないとも言える。

SDGs を達成するための方法としてはバックキャスティング、つまり未来の姿から逆算して現在の施策を考える方策が必要である。SDGs は高い目標を掲げているため、日本の行政にありがちな現状を少しずつ改善していくというフォアキャスティング、積み上げ型では追いつかない可能性が高い。今、何をしなければいけないか、現状のやり方ではない方法を考える必要がある。

その達成状況だが、2018 年の民間団体の報告では、日本は 15 位 / 156 カ国である。



### 3. 日本政府の SDGs の取り組み

日本政府は 2016 年 5 月に SDGs 推進本部を内閣に設置し、SDGs 実施指針を策定し、具体的な 8 つの優先課題を決めてアクションプランを実施している。具体的な取組例としては、2020 東京オリンピック・パラリンピックは、SDGs 推進に協力することに合意し、例えば国立競技場で使用される木材は認証された木材のみを調達している。また、スマートフォンなどを集めた都市鉱山で金メダルを作るといったことも行われている。

### 4. 地方創生に向けた自治体 SDGs 推進事業

人口減少社会の中、地方創生の実現に向け、新しい理念や手法が必要であり、SDGs の考え方を取り入れた事業が多くの自治体で進められている。令和元年度に 31 都市が「SDGs 未来都市」、また 10 都市が「自治体 SDGs モデル事業」に選定され、岩



手県から初めて陸前高田市が選定された。陸前高田市の提案全体のタイトルは「ノーマライゼーションという言葉のいらぬまちづくり」である。

矢巾町ではアフリカからのJAICA研修生が水道事業を学んでいる。水道事業を学びに来たアフリカの研修生の話から、アフリカの水事情を改善するために、JAICA債の購入を行うと行った国際貢献を行なっている。

## 5. 岩手県立大学の取り組み

2019年5月、国連アカデミック・インパクトに加盟し、全学を挙げて大学のグローバル化や地域社会の国際化の支援に取り組み、地域における実践的な教育・研究を通じて持続可能な社会の実現に貢献していくことにしている。しかし、県立大学1年生のSDGsの認知度はまだ17.1%と、一般県民25.8%、企業57.6%に比べて低いのが現状である。

## 6. 私たちができることは

滋賀県作成のリーフレットでは「今日からSDGsアクション」ということでフェアトレードの物を購入するといったことが挙げられている。これは途上国の支援、格差の是正につながり、また地産地消の物を購入することもSDGsに貢献する。食べ残しをしないといったことも食品ロスを半減することにつながる。SDGsでは世界はつながり、一人ひとりの行動が世界に影響を与える。自分を起点にして物事が回り回って、その影響が自分に降りかかってくる。だからこそ、できることから行動を起こしていただきたい。

